



街角レポート

蔵の街

真壁のひなまつり

このコーナーでは、県内外のまちづくりやちょっと素敵なまちなかのお店や施設などをレポートし皆さんにご紹介します。

街中でいくつもの店先などにひな人形を飾る「蔵のまち・真壁のひなまつり」が2月3日から3月3日までの1ヶ月間、真壁町の中心商店街で開かれました。

真壁の古きよき街並みをひとつのミュージアム(博物館)にたとえ、道路を廊下に、個々の店舗や住宅を展示室に見立て、おひな様を飾ったそうです。

このひなまつりは、「寒い中、真壁の街並みを見に来る人をもてなそう」と、町内の有志が企画したもので、商店街の人たちも積極的に参加し、約40軒にひな人形が飾られました。中には、江戸後期や明治、大正に作られた古いひな人形も展示されていました。

地域住民による手作りのひなまつりは、新聞やテレビ等に頻繁に紹介され、期間中に13,000人を超える人たちが真壁町を訪れ、遠くは宮城県から来た御夫婦もいたそうです。

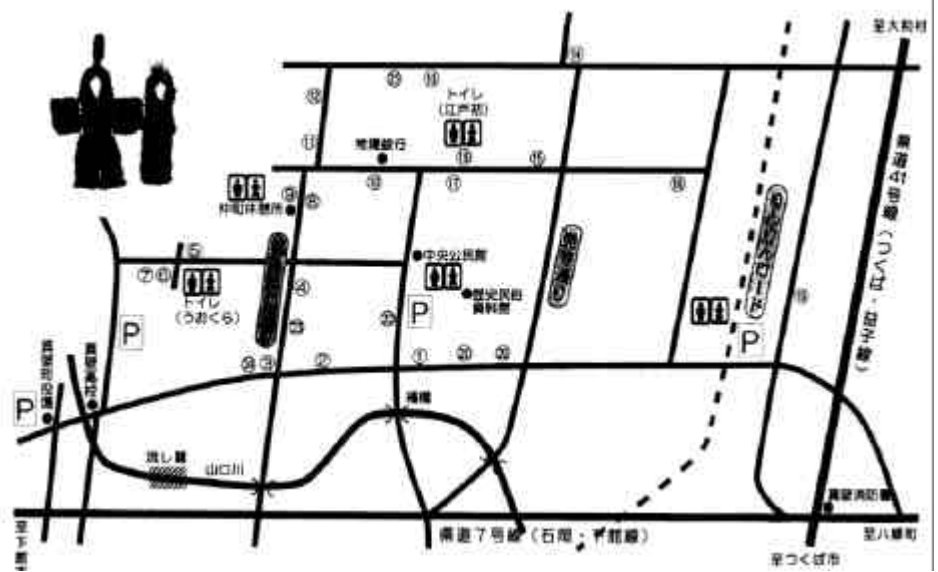
今年のひなまつりは終わってしまいましたが、来年も行う予定です。是非、来年は真壁のひなまつりを見に訪れてはどうでしょうか。

問い合わせ先：真壁町商工課

0296-55-1111 (代表)

(編集委員 M.N)

ひなめぐりマップ



ひな人形が飾られている店舗



きれいに飾られているひな人形



ひたちまち びじゅつかん
日立街かど美術館

日立市の銀座通りに「日立街かど美術館」があります。市・商工会議所の空き店舗活用事業の一環として助成を受け、平成13年11月1日にオープンしました。

元々は衣料品店だった店舗を改装して1階は、「日立銀座フォトサロン」として写真愛好家の交流スペースに、2階は「ギャラリー日立銀座」として写真・絵画・陶芸作品などを展示、販売するスペースになっています。店舗内は、空間を有効に活用することで多くの展示スペースを確保しており、プロからアマチュアまで様々な作品をゆっくりと鑑賞できる、落ち着いた雰囲気となっています。



代表の今橋さんは、10年ほど前から写真に興味を持ちはじめ、市・商工会議所が空き店舗対策に頭を悩ませていたところに、作家が安く展示できる展示スペースの提供と市民の方々へ身近に販売の場を設けることを目的としたこの美術館の話を持ちかけました。運営はすべてボランティアで行っているため、資金面では頭を悩ませることも多いとのことですが、商店街を活性化させるために「人が集まれば良しとする。人が動くことが大切」と語ってくれました。

美術館という非日常的なイメージですが、気負いなく作品を鑑賞できる貴重なスペースとして市民の期待がかかっています。みなさんも気軽に立ち寄り郷土作家の作品にふれてみてはいかがでしょうか。日立市鹿島町1-14-8 TEL 0294-23-8563

「日立街かど美術館」代表 今橋孝行

(編集委員 T.K)

まちの駅を知っていますか？

「まちの駅」とは、市町村の行政域を越えた連携を目指して、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する拠点です。特定非営利法人（NPO法人）「地域交流センター」の提唱で始まり、平成12年に「まちの駅連絡協議会」が発足し、「まちの駅」に取り組む市町村・団体などが交流連携活動を行っています。

「まちの駅」は、まちの総合情報拠点的なものや特定のテーマのある施設に情報提供と交流空間をプラスしたものなど性質や機能が様々で、「地域交流センター」によると2002年10月1日現在、全国に51ヶ所あり、試行中を含めれば222ヶ所に上ります。

県内では、笠間市「やきものの駅」（笠間工芸の丘）など、12の「まちの駅」があります。

そのうち、水戸市内では1月から水戸商工会議所が「まちの駅みと」を、市内中心部の東京電力茨城支店の一角に開設しました。パソコンで観光・宿泊・土産品等の情報が検索できるほか、観光案内パンフレットもそろえ、土日祝日は電動四駆スクーターの無料貸し出しも行っています。

民間や市町村が地域住民の交流や情報発信の場として地域の特色を生かしたまちづくりをPRする「まちの駅」を一度訪れてみてはいかがでしょうか。

まちの駅連絡協議会のHP

<http://machinoeki.com>

(編集委員 Y.I)

